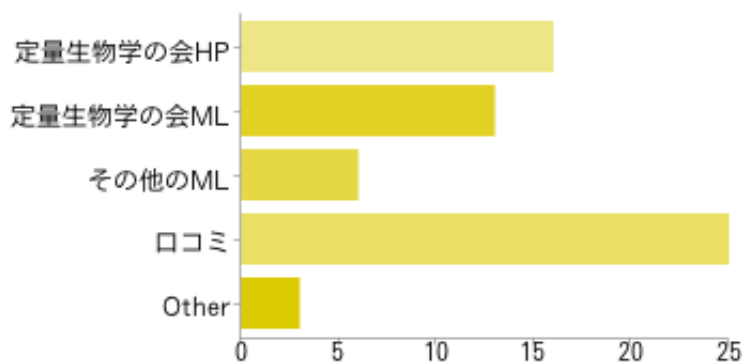


第1回年会(2009 Jan @東大)	13	10%
第2回年会(2010 Jan @阪大)	11	9%
第3回年会(2010 Nov @東大)	17	14%
第4回年会(2012 Jan @名大)	19	15%
第5回年会(2012 Nov @東大)	23	19%
第1回キャラバン(2009 Mar @遺伝研)	6	5%
JSBi、定量生物学の会 共催夏の学校2009	1	1%
第1回国際ワークショップIWQB2012(2012/11/22@東大)	9	7%
第2回国際ワークショップIWQB2013(2013/11/25@阪大)	5	4%
なし	20	16%

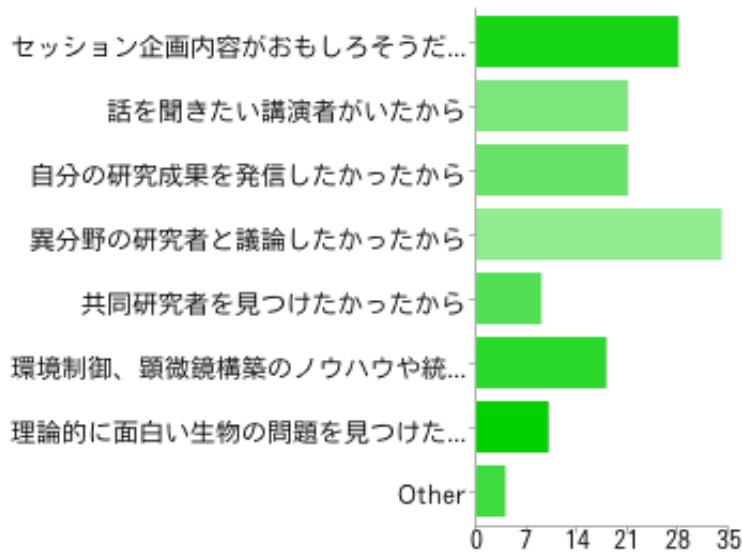
7. 「定量生物学の会」第6回年会（以下本研究会）をどこで知りましたか？



定量生物学の会HP	16	25%
定量生物学の会ML	13	21%
その他のML	6	10%
口コミ	25	40%

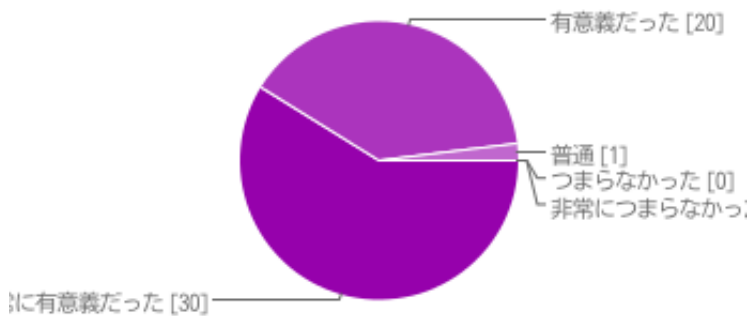
Other 3 5%

8. 本研究会に参加しようと思った理由はなんですか（複数回答可）？



セッション企画内容がおもしろそうだったから	28	19%
話を聞きたい講演者がいたから	21	14%
自分の研究成果を発信したかったから	21	14%
異分野の研究者と議論したかったから	34	23%
共同研究者を見つけたかったから	9	6%
環境制御、顕微鏡構築のノウハウや統計、理論の基礎などの情報を得たかったから	18	12%
理論的に面白い生物の問題を見つけたかったから	10	7%
Other	4	3%

9. 本研究会に参加した感想をお聞かせください。



非常に有意義だった	30	59%
有意義だった	20	39%
普通	1	2%
つまらなかった	0	0%
非常につまらなかった	0	0%

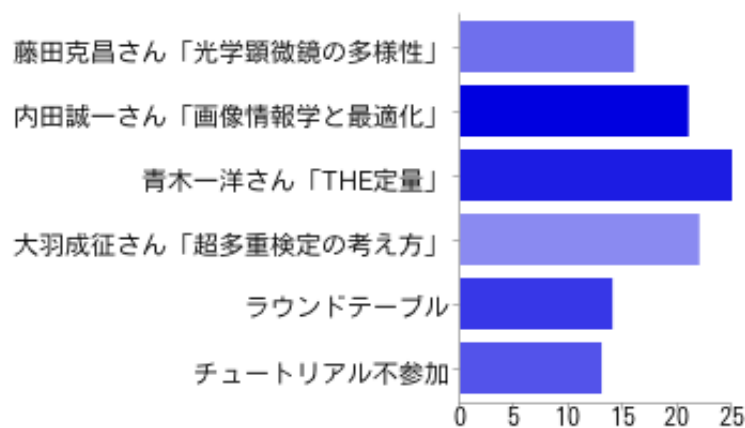
10. 9.の理由をお聞かせください。

話をしやすくよかった。新しい人間関係、共同研究を築くことができた。普段こうい
ったテーマの研究会に参加する機会が少なくなっているため、様々な研究の現状を概観
することができたため。様々な分野を専門とする研究者が集まる会だから。研究をす
る上で、精神的に近い感じの人にはこの学会でしか出会えません。。一年に一回元気をもら
えます。ここ以上に守備範囲と違う人と、広く浅く時に深く、活発に議論できるのはな
いので、今年もそうだった。自分の研究に対して、異なる分野の人からの新鮮で鋭い意
見を聞く事ができてよかった。ポスター時間を十分に用意してくださっていたので、互いの
研究をよく理解できた。雑用がなく会議の内容に集中できたから。異分野の有益な情
報を入手することができました。自分自身は、神経科学分野のデータ解析を行っている
が、定量生物学の方々と交流できたのが有意義であった。異業種の人達が同じセッショ
ンで講演するため、普段ならば自分には関係ないと思って気かけないようなタイトルの講
演も強制的に聞かされることになる。予想外に参考になる話があったりして、新情報を得る
手段としてはとてもいい。講演者の発表の質が高かった。ラウンドテーブルなど、新し
い企画に挑戦して、参加者間交流の促進などの成果が得られた。前回、前々回以上に多
くの人と、研究内容について議論することができ、情報交換も以前より進めることができ
た、と感じられたため。講演内容も面白かったし、自分の研究に参考になるような意見
ももらえて有意義だった。セッション後の総合討論がとても良かった。ディスカッショ
ンの場を増やしてほしい。コンピューターシミュレーションという選択肢を得たから。
これは研究に必須のアプローチではないけれど、凝り固まった思考では思いつかない事実に
気付かせてくれる。かもしれない。相変わらず充実した3日間でした。(3日目最後は
出席できずに申し訳ございませんでした。) 毎度そうですが、バイオの皆さん(ただしQ-
Bioの場合、バイオオンリーではなく、色々な分野の懸け橋となり得る方々ばかりですね)
とお話をさせていただくと、ものすごくアドレナリンが出て、(微力ながら)なんとか役立
ちたいと夢想してしまいます。講演の内容が面白かったから。異分野の話も興味深かつ
た。探していた情報が得られたので。生物の中でも多様な分野の研究者と交流できたた
め。進行中の研究について多くのありがたいご助言を頂きました。口頭発表者のレベ
ルが非常に高く、さらに多様性に富んでいる。またテーブルディスカッションによって参加
者間の交流を促進する仕組みづくりに工夫を凝らしている。知り合いが増えて大変有意義だ
った。自分の研究に対する意見・コメントがもらえたから。他の研究発表から、新鮮な
刺激がもらえたから。顕微鏡を使っている方々が「定量性」についてどんな考えをもっ
ているか、よくわかりました。本研究会は多岐にわたる分野からのレベル・モチベーシ
ョンともに高い研究者が参加されていて、ポスターセッションでこれらの方々と有意義な議
論ができたため。今年は企画も「前のめり」志向にあり、チュートリアル、年会ともに
知的刺激を受けた。最新の成果や有効な研究関連情報も得ることができたし、これまで知ら
なかったような方々とも議論や接点を持てたことは有意義であった。いろいろな研究や
背景を持つ人と交流ができて有意義でした。今まで関わる事がなかった分野の研究者
と議論することができた。いろいろな方と交流でき、自身の研究へのアドバイスも頂け
た。定量をしようとしている人達の考え方が多少なりともわかったので。チュートリアル、特に「THE 定量」と「超多重検定の考え方」は大変勉強になりました。また、自身の
ポスター発表でも有意義な議論をさせていただきました。質問しやすい雰囲気だったので。演者の方々がかなり豪華で幅広い内容をカバーしており、大変勉強になりました。ポスター発表でも様々な方々と議論できて、大変良い機会となりました。僕はもともと

物理系で今は生物をやっています。その観点からすると新しいものは感じられなかった。まあ、物理だった人が生物やるとそうなるよな、という感じ。もっと飛躍を期待します。若い人が中心なんだから。チュートリアルと本会を通じて、いろいろ勉強になったが、特に、面白い共同研究をできる可能性のある研究者と知り合えたのが有意義だった。外から見て、若干内向きの会という印象を持ち、これまで参加していなかったのですが、実際に参加してみて、割合オープンで水準の高い発表が多かったのも、とても良かったです。

異分野の方の研究を垣間みる良い機会でした。共同研究の成果に対してフィードバックが得られた 知らない知識をたくさん得ることができた。以下に並べます。特に良かったこと：参加者のレベルの高さとモチベーションの高さ。企画側の努力。濃い目のディスカッションができる人がいること。良かったこと：会場。バンケット。規模。様々な分野からの視点を実感することができたことに加え、交流できる雰囲気やディスカッションの質の高さを実感できました。来年以降も引き続き参加して、多くの知見を取り入れ、他の研究者との繋がりを作り、自身の研究の質を向上させていきたいと思います。普段、理論系の方とあまりお話する機会がないので、とても有意義だった。とくにイメージングと数理モデルの融合領域をやっている研究者が自分の周囲にあまり多くないので大変よい刺激になった。・あらためて数理生物学の重要性を理解できた。・数理生物学に対する「精神的な壁」みたいなものが無くなった。他の分野の研究者と話ができたのでよかった。他の学会よりも面白い議論ができたと思う。自分の発表内容に多くの異分野の方からフィードバックを頂き、今後の方向性を決めるのに大変参考になった。ユニークな技術を使った研究の発表が多いので、新しい技術や研究のトレンドを知る上で参考になった。異分野（特に理論家）の考え方や実験手法に関して知ることができたため。8.の参加目的が全て満たせたから。今回は始めて世話人として関わらせてもらい、色々なことを経験させてもらいました。世話人としては、他の世話人の方たちの世話になりっぱなしでした。済みません。当日は色々なことを試してみてもよかった点、反省すべき点が浮き上がってきました。次回の年會に活かしてもらえたらと思います。以下のアンケートに自分の意見を書いています。普段行く学会等で聞けない講演が聞けた 研究会の雰囲気が良かったから 研究開発した技術の製品出口イメージを ある程度明確にすることができたから。

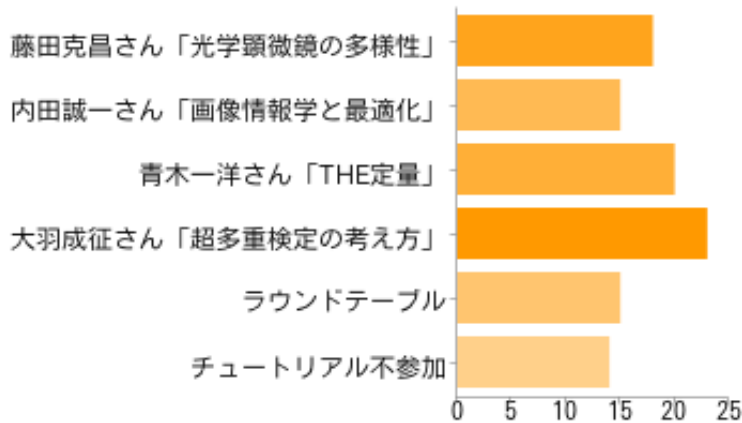
11. [チュートリアル (11/22) について] 本研究会参加前に魅力を感じたチュートリアルは何ですか？（複数回答可）



藤田克昌さん「光学顕微鏡の多様性」	16	14%
内田誠一さん「画像情報学と最適化」	21	19%

青木一洋さん「THE定量」	25	23%
大羽成征さん「超多重検定の考え方」	22	20%
ラウンドテーブル	14	13%
チュートリアル不参加	13	12%

12. [チュートリアル (11/22) について] 実際に参加して、印象に残ったチュートリアルを挙げてください。（複数回答可）



藤田克昌さん「光学顕微鏡の多様性」	18	17%
内田誠一さん「画像情報学と最適化」	15	14%
青木一洋さん「THE定量」	20	19%
大羽成征さん「超多重検定の考え方」	23	22%
ラウンドテーブル	15	14%
チュートリアル不参加	14	13%

13-a. 12.の理由をお聞かせください。

藤田さん：ラマン散乱について正しく理解できたから。青木さん：様々な値の測定法とその重要性を知ることができたから。大羽さん：今まで意味不明だったFDRが理解できたから。自分が知らないことだったから。これまで私は、統計検定と言えば既存の方法のどれを当てはめて目的の検定を行うかを考えるだけでした。しかし、大規模データの検定を行う際に、検定の原理考察から新たな検定手法の開発に移行し、科学的な発見にまで至っていた。振り返って考えてみると、実験研究者（もしかすると理論研究者も）も、技術を開発し、実験し新しい発見にいたるというプロセスは実は相同なのではないかと思われた。統計検定を軸に、技術開発から発見に至る研究は、これから増えていくのではないかと。最先端で開発される検定手法を、共有することにより、データを取り扱う自由度が増えると思われる。ちょうど興味のある内容だったから。興味があったので今回参加できませんでしたが、タイトルを一見しましたところ、チュートリアルで行ったものの記録があれば欲しいぐらいどれも有意義だと思います。おそらく大学などの講義の教材にもなるぐらい有用なテーマだと思いますので、例えば、そのまま二次利用可能な形の配付物として(PDFとかムービーで)公開していただくと嬉しいです。普段使用していない顕微鏡について知ることができ有益でした。とくにラマン散乱であそこまで観察できることに感動しました。

いろいろな考え方に刺激を受けた。藤田克昌さん「光学顕微鏡の多様性」顕微鏡の種類についてまとめた知識を持たなかったので勉強になった。ラマン顕微鏡は非常に興味深かった。青木一洋さん「THE定量」私自身も細胞内のパラメータやその測定、精度に興味を持っているので楽しめた。大羽成征さん「超多重検定の考え方」内容は理解できなかったが、その語り口と内容の難しさに印象に残った。どのチュートリアルも大変勉強になりました。チュートリアルにありがちな「あれもこれも」という感じではなく、話題が限定されていた分とても理解しやすかったです。自分の知識の再確認ができた。これまで知らなかった興味深い内容も多かったので有意義だった。同じテーブルで会話した方と面識ができて、2日目にポスターを拝見しにいっきかけとなりました。研究者間の交流促進のためのいい取り組みだと思います。とにかくすべての演題が勉強になりました。どの講演も「学術報告」におさまらず、えられたデータの背景をも発表してくださったのがとても参考になりました。また内田先生の分野は初めてでしたが、非常にわかりやすかったです。冒頭に最新の顕微鏡の話聞いたのは大変良かった。どんどん画像がきれいになっていく... ありがたいことです。青木先生の「The 定量」も、なるほど、バイオにおける定量というのは第一義的に（THEが付いているわけですからね）、こういったものを指すのか、ということがわかった。急用のため、参加できませんでした。藤田さんのご講演では、ラマン？顕微鏡というものを初めて知り、大変興味深かったです。内田さんは最適化計算に興味があったので、一般的な話を聞いて勉強になりました。青木さんは、あそこまでこだわって定量していることに感銘を受けました。大羽さんは、私には若干難しかったのですが、統計をちゃんと勉強しないといけないと再確認しました。今回初のラウンドテーブル開催ということと伺いましたが、専門の異なる研究者と(これまでになく)コミュニケーションをとることができて非常に有意義な時間を過ごせたと感じました。もう少し時間が長いとより踏み込んだ議論ができるかもしれません。藤田さんは、美しい画像例と共に各種顕微鏡の原理説明とバイオラマンの詳しい紹介、青木さんは、自身の具体例による定量の解析手法整理と紹介、そのアイデアがそれぞれ印象的であった。藤田さんの話は、自分の研究に応用できそうだったので勉強になった。ラウンドテーブルは疲れたけどおもしろかった。徹底的に定量する姿勢が感じられてその勢いが勉強になった。自分でできそうなところと誰かに相談しなければ難しそうなところが整理された。すいませんが、遅れて参加したため大羽さんのご発表しか聞けませんでした。個人的には内田先生のご発表を聞きたかったです。顕微鏡で用いられる物理現象（今回だとラマン散乱）も、多重検定で使用する統計学手法も、いずれも単純に面白いと感ずることができたため。講演者が独自に乗り越えてきた課題を経験も踏まえてお話されてたので、説得力があり、わかりやすかったため。ラマン勉強になりました。画像解析でこれから自分が勉強すべき事項が整理出来ました。定量の具体的方法が改めて確認出来ました。統計の基本を改めて勉強出来ました。ラウンドテーブルは初めての経験で、緊張しました。ご一緒して頂いた方々に感謝です。いずれのチュートリアルも話題を俯瞰できる非常に整理された構成になっており、現在何ができるかを知り、どこまでやるべきかを考える上で大変役に立つ内容だった。私にとって専門的すぎるチュートリアルもありましたが、演者全員の顔が印象に残ったという意味で全部。ああ藤田さんは知っていることも多かったが、ラマン顕微鏡についてまとめた解説と最新の成果を聞いたのがよかった。内田さんは昨年度よりさらに内容が充実していた。青木さんは定量生物学の会王道のチュートリアル。大羽さんはとても勉強になりました。予定が入ってしまい涙をのみました。。。青木さんのチュートリアルには、テキストでは得難いかゆいところに手が届くような細かい配慮があり、印象に残りました。大羽さんのは、割り切った実用的な解説と、図解が目からうろこでした。 N

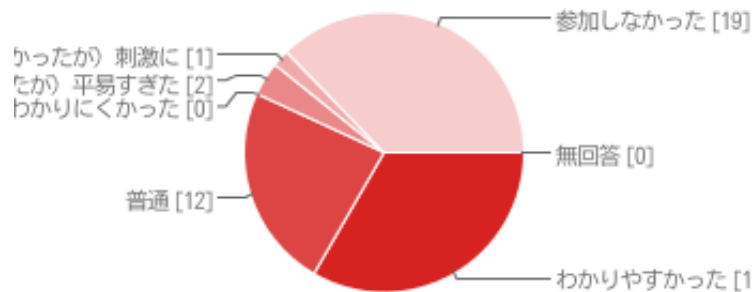
A 講演でちょっと気になったことについても気軽に質問できたり、わからなかった点をもう一度解説してもらったりすることができたため。他の参加者との交流にも役立った。非常にわかりやすかった。じえじえじえ 多重検定のときに気を付けなければいけない問題と解決への糸口が多少は理解できた。ふだん気にしていてもなかなか聞く機会のない内容だから 実験の話や統計の話など、とても聞きやすかった。qq いづれの発表も良かったです。大羽さんはもう少しアドバンスな話をしてもらっても良いかなと思いました。これまで深く考えてこなかった「検定」について、その本質を知る素晴らしい機会でした。統計学というものの重要性を再認識させて頂きました。藤田先生：ラベルフリーでここまで観えるのかと驚愕でした。確かに医療診断など様々な応用が考えられ、今後の展開が大変楽しみです。青木先生：大変おもしろかったです。講演内容を和書などのまとまった形で出版してほしいです。定量することの重要性と難しさが大変よく理解できました。内田先生：最適化のお話、大変有意義でした。またイメージング画像の解析など、時間があればより深く相談したいなと思いました。大羽先生：大変難しく正直私は途中でFollowできなくなりました。。。次回はがんばって理解したいと思います。aa もっと数値化をするべきだと思う。画像解析を始めたばかりだったので、色々な手法の概観ができてよかった。検定の重要性を再認識できた。

13-b. 次回のチュートリアルで取り上げてほしいテーマがあればお聞かせください

細胞、発生現象の数理モデル構築 引き続き内田先生シリーズを！最適化を実践を踏まえて教えてほしい（最小二乗法などの局所最適化問題からGAなどの大域的最適化問題まで）。ちょっと今すぐは思いつきません。考えます。不参加でよくわかりませんが（過去にきつとあったのかもしれませんが）事例に基づくMATLAB講習会があると出たいです。今回も多くの演者がシミュレーションや、大規模データ解析にMATLABを使われていましたが、なかには、こんなのどうやったらできるの？というものがありました。通常は肝になる部分だけを講習会などでみせられることが多いですが、生データから論文の図になるまでの全過程を実例でみてみたい。チューター側の準備にすごく手間がかかりそうですが。。他に、良いプレゼンする方法（論文、口頭、ポスター）、ラボ運営のTIPs、各個人の研究生活、ポストを得る方法（履歴書の書き方）、科研費獲得術、ワークライフバランス、論文の書き方講座、投稿論文のTIPSなどの事例もチュートリアルとしてあっても良いかとも思います。若手には重要な情報です。数理モデルの作製法 ・細胞力学の基礎 ・1細胞オミックスの現状 ・時系列統計解析 ばらつきや個性の定量化について 実験と理論の共同研究と個別の研究の違いについてのチュートリアルや議論(例えば、ラウンドテーブルの議題として)。プレゼンテーション、論文作成技術 力学系、非線形、複雑系など 理論。力学系。 光学、画像解析など。 時系列解析の基礎 バイオ実験で使うデバイス制御のコツ（光学、電気、メカ、などなど） github? 内田さんのチュートリアルで導入的に触れられ、木村さんから質問のあった、「最適化問題」についてのチュートリアルはあったら訊いてみたい。また、チュートリアルの難易度も、より難易度の高いものを含めて、硬軟とりまぜた形であってもよいのかなと思う。 R や BioRubby の使い方 データベースの使い倒し方 少ない細胞数 (1-100個) でもできる生化学実験・定量実験法 原子間力顕微鏡 (AFM) でできること・できないこと 顕微鏡周りの制御の話が聞きたいです。各ラボが実際に行っている画像解析の手順や方法 数式の読み方。自分は分子生物学のバックグラウンドなので、理論系の人がある数式（特に微積分方程式）を見たときにどこをどう

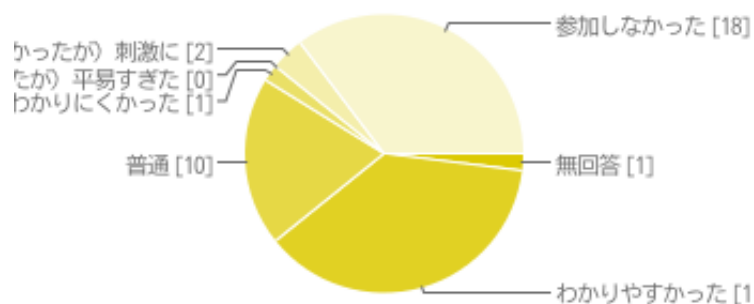
見ているのか、何を考えながら数式を見ているのかが知りたい。採用と解雇 進化と定量 実験屋として「How to定量」みたいな実践形式のセッションがほしい。例えば、「皆がPCを持ってきて、それぞれがサンプル画像からデータを抽出する」とか。 aa

14-a. チュートリアルの難易度をお教え下さい。藤田克昌さん「光学顕微鏡の多様性」



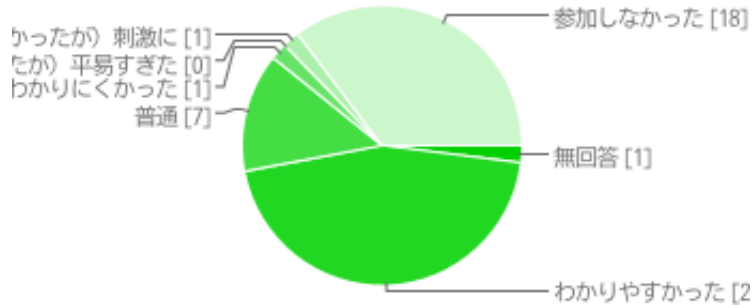
無回答	0	0%
わかりやすかった	17	33%
普通	12	24%
わかりにくかった	0	0%
(理解したが) 平易すぎた	2	4%
(理解しなかったが) 刺激になった	1	2%
参加しなかった	19	37%

14-b. チュートリアルの難易度をお教え下さい。内田誠一さん「画像情報学と最適化」



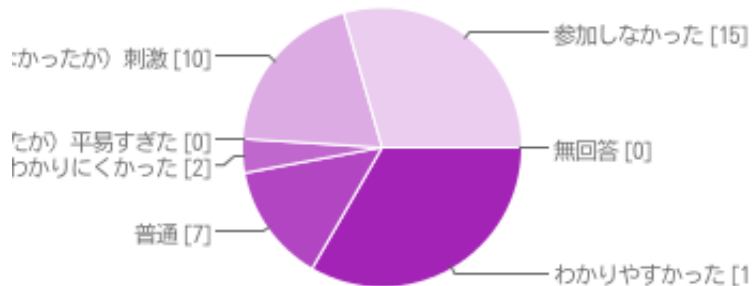
無回答	1	2%
わかりやすかった	19	37%
普通	10	20%
わかりにくかった	1	2%
(理解したが) 平易すぎた	0	0%
(理解しなかったが) 刺激になった	2	4%
参加しなかった	18	35%

14-c. チュートリアルの難易度をお教え下さい。青木一洋さん「THE定量」



無回答	1	2%
わかりやすかった	23	45%
普通	7	14%
わかりにくかった	1	2%
(理解したが) 平易すぎた	0	0%
(理解しなかったが) 刺激になった	1	2%
参加しなかった	18	35%

14-d. チュートリアルの難易度をお教え下さい。大羽成征さん「超多重検定の考え方」



無回答	0	0%
わかりやすかった	17	33%
普通	7	14%
わかりにくかった	2	4%
(理解したが) 平易すぎた	0	0%
(理解しなかったが) 刺激になった	10	20%
参加しなかった	15	29%

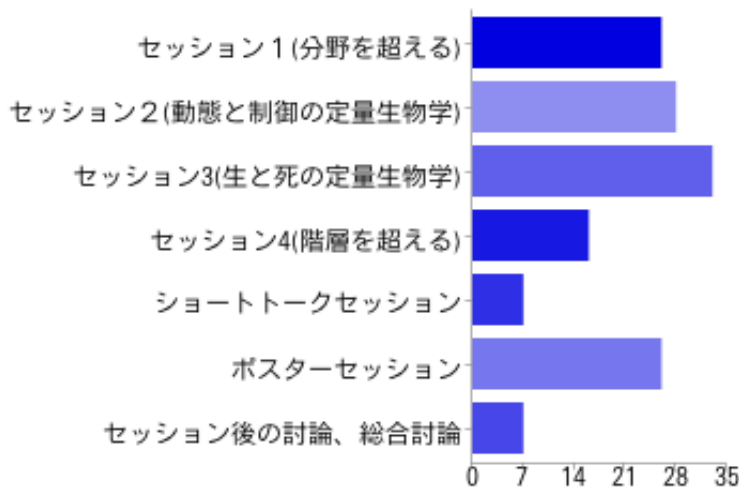
14-e. ラウンドテーブルについて感想をお聞かせください。

ラウンドテーブルでは他の研究者とディスカッションすることができ、それによって翌日以降の学会でも話しかけるきっかけとなったことはとてもいいシステムだと感じました。これはとても楽しかったです。「正しい顕微鏡画像とは」というキーワードでこれほど盛り上がりられるとは思いませんでした。一方で襟をただす思いです。 参加しませんでし

た。 ちょっと変わったテンションで皆が議論する様が面白かった。連想ゲームの用に、
どんどん話が膨らんでいき、場が盛り上がり楽しかった。 もう少しお題を明確にした方
が良いと思った。 なかなか共通のバックグラウンドがないので、議論をするのが難しく感
じられましたが、知り合いを増やす意味では有効に機能していると思いました。 参加し
たかった～ 議論した内容や課題が一朝一夕でクリアされる訳ではありませんが、ほとん
ど顔見知りでない人とほどほどに議論するのもありかなと感じました。 交流が目的とい
うことだったので、これがきっかけでポスターでの交流にもつながり、時間的にはタイトでし
たが、有意義でした。 13-aと同じ。 全般的に少し慌ただしい感じはありましたが、試
みとしてはとてもよかったです。前半のパートよりも後半のパートのほうが一般的な
話題がしやすく、議論も活発にできて楽しかったです。 短時間ではありましたが興味あ
るテーマでの議論ができてよかったです。また、同じテーマに興味がある人たちを認識でき
てよかったです。 面白い企画なので続けてほしい。議論が盛り上がるあたりで時間切れ
になることが多かったので、今回の二倍は時間を当ててよいように思う。 よいと思いま
した。 工夫を凝らして印象付けないと学習しない私にとって、最適な方法の一つでし
た。 前半：時間を長くするとよいかも。人気のテーブルでは、ほとんど話せない。後
半：テーマ設定をある程度絞らないと議論が難しい。 思ったよりも、面白かった。 aa
面白そうだったので、次回は参加したいです。 参加者同士の交流の場として大変有意
義だったと思う。ただ人数が多い場合（10人程度）には、話がまとまらず、テーブル内でサ
ブグループに分かれて話が進むこともあり、もう少し小さいグループ（6人くらい？）の方
が良いのかなという印象ももった。 倍返しだ！ あああ 多くの人と交流できた良かっ
た。 他分野の方と活発に議論できて、刺激的でした。 ラウンドテーブルは改善すべき
点もあるが、やってよかったですと感じています。もう少し時間と個別テーマのテーブル数を増
やすべきか。 人数の多いテーブルでは自己紹介だけで10分くらい時間がかかっていたの
で、1つのテーブルあたりの人数を4-5人くらいにしたほうが良いと思いました。 お酒あり
でもいいでしょうか？ 面白い試みだと思うが、もうちょっとよくオーガナイズされてい
た方がよかったですのではないかと思います。 ポスター発表前に参加者何人かと話すことができ
た、という点で、導入のような役割を果たすことになり、役に立ったと感じた。 新しい
企画に感謝します。 初日にこれを入れて頂いたのは、アイスブレイクになって大変、大変よ
かったと思います。ここでの面識はその後役立ちました。もしかしたら、テーマやタスク
など設定せずに、少人数での短時間合コンを繰り返してもよかったですかもしれませんね。ご
尽力ありがとうございました。 時間をもう少し長く取ってもいいと思った。 不参加 各
ラウンドの時間が短かったように思う。 テーブルディスカッションによって参加者間の
交流を促進する仕組みづくりに工夫を凝らしている。次回はもう少し回数を増やしてもいい
かもしれません。また、ここでのディスカッションを最終日の参加者討論に反映させるよう
な形で、さらに年会のセッション間の関係を有機的に連動させることができないか、などと
考えました。 NA 自己紹介で時間を費やしたため、深く議論するに至らなかったのが
残念です。 異分野の人と交流できて面白かった。知り合いもできたので有意義だったと
思う。 普段だとなかなか会話するきっかけがない方と、意見交換ができました。 上にも
書きましたが、ちょっとした疑問など気軽に尋ねられたので、とても良い企画だと思いま
した。一方で発言者が限られてしまいがちであることが問題かとも思いました。テーブルご
とに各分野の人達を偏らないように選出したとのことでしたが、話し合った内容がチェアマ
ンの分野に偏りがちなのはそういった影響があったのではないのでしょうか。 いい機会だ
と思います。 回す側だったので役割を果たせるようがんばりました。参加した一般の皆さ
んの感想をお聞きしたいところです。 とても刺激になりよい仕組みだと思った反面、割

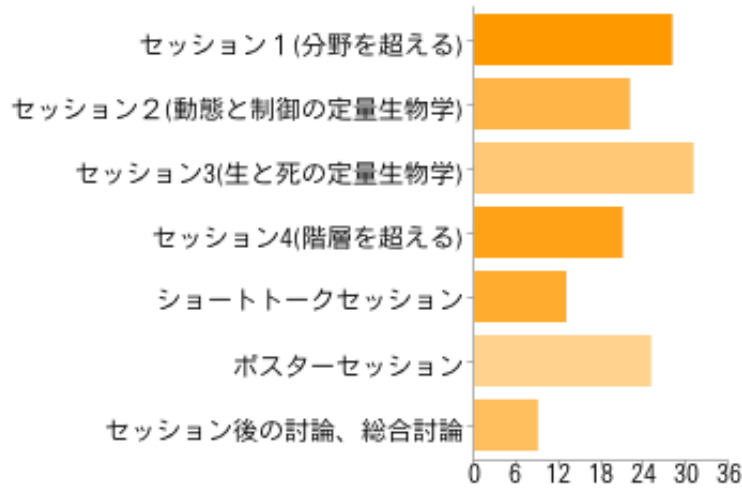
り当てた時間が少ないもしくは1グループの人数が多かったので、消化不良気味でもあった。人数が少なめのグループにした方が密にコミュニケーションできると思ったが、当たり前外れも大きくなるので7,8人ぐらいがいいかなと思いました。 自己紹介だけでほとんど終わってしまう感じだったので、もう少し時間を長めにとった方がいいかもしれない。事前に議論したい内容を参加者に問うておいて、リーダーの方にはその回答をある程度用意しておいてもらうと教育的効果が出るように思う。 定量生物学の会では初めての企画であり、自分も新鮮な緊張感を持って臨めた。様々に設定された制約が場の活性化には意味をもつ場合もあり、結果的に議論は活発で楽しいものとなった。テーブルごとに出て来たまとめを年会の最後に紹介するのも面白い趣向と思う。 aa 一番やってよかったなと思ったのが、ラウンドテーブルでした。思ったより楽しかったし、何よりラウンドテーブルで話した人と仲良くなれるので年会でも話しやすくなるというメリットが大きかったです。リーダーが大変ですが、みなさん意見をたくさん言ってくれて助かりました。個別が30分 x 2, 共通が30分 x 1でも良いとの意見もありました。また共通を先にやって、個別を後にするという意見もありましたら、個人的には、今回の順番が良かったです。

15. [年会(11/23-24)について] 本研究会参加前に魅力を感じた企画をあげてください。(複数回答可)



セッション1 (分野を超える)	26	18%
セッション2 (動態と制御の定量生物学)	28	20%
セッション3 (生と死の定量生物学)	33	23%
セッション4 (階層を超える)	16	11%
ショートトークセッション	7	5%
ポスターセッション	26	18%
セッション後の討論、総合討論	7	5%

16. [年会(11/23-24)について] 実際に参加して印象に残った企画をあげてください。(複数回答可)



セッション1 (分野を超える)	28	19%
セッション2 (動態と制御の定量生物学)	22	15%
セッション3 (生と死の定量生物学)	31	21%
セッション4 (階層を超える)	21	14%
ショートトークセッション	13	9%
ポスターセッション	25	17%
セッション後の討論、総合討論	9	6%

17. 16.の理由をお聞かせください。

どの分野もとてもおもしろかったです。学際性の効果を強烈に見せつけられたどのセッションも非常に印象が強いのですが、この中で強いてあげれば玉田先生のが一番印象に残ります。自分のデータを解析するために、国立天文台のハワイ観測所まで伝手だけをたよりに解析依頼をした、ということ、一言でいうとすごいなー、なのですが、「定量性」について研究者の方々がいかに苦労なさって、パートナー探しに苦労しているのか、がよくわかりました。先生の発表がどちらも興味深く、私自身の研究にもヒントとなる要素があったため。異分野の話聞いた。実験と理論のお二方によるプレゼンは特に印象的だった。細胞集団の動きや「生とは何か」について議論していた点でセッション3も興味深かったが、特にセッション2において、実際に実験系と理論系の研究者2人によって、実験系と理論系の共同研究の例を提示していた研究があったことが特に印象に残った。目新しい内容だったから自分も異分野の人との共同研究が多いので、参考になった。共同研究の様子がわかって参考になりました。各セッションごとに面白い講演があった。セッション全体のまとめは特に感じなかったが、それはそれでいいと思う。集団のばらつきが集団の性質に影響するという概念がとても印象的でした。この会は、ポスターセッションがウリだと改めて思いました。ポスターの内容のレベルは日本一の会だと思います。若本さんの研究内容を聞くのは何回目かでしたが、系のシンプルなのに比して、すごく基本的で重要な問題に取り組まれていると思ひ感銘を受けました。補償光学の話がよかった。ポスター#28 神田 元紀「"もやもや感"を定量的に評価するにはどうしたら良いか」インタラクティブなディスカッションが行われたのが良かった。若本 祐一「1細胞レベルの適応度ゆらぎと集団ダイナミクス」均一な細胞集団がどうしてばらつくのか、常に疑問を感じてきた。この問題はかなり一般的だと思う。この問題について数理的にアプロ

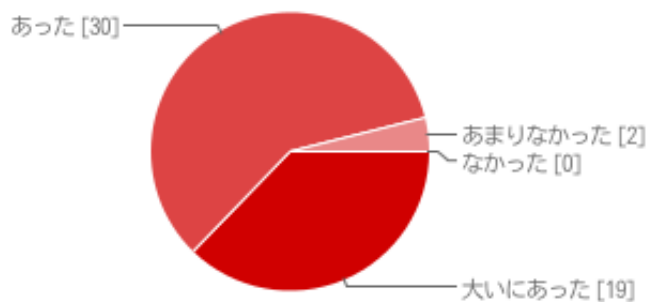
一斉して面白かった。セッション後の総合討論がとても良かった。最新の話が若い人たちの手でとてもわかりやすく解説されていました。セッション1：工学的な話を聞くことができたから。セッション3：クマムシの強さに関する分子メカニズムを理解できたから。今聴いてみたいテーマが最も多く含まれていた為。くまむしのおもしろかった分野に偏りが無く飽きなかったから。どのセッションも、予想していなかった興味深い内容を含んでいました。特に技術開発や数理モデルによる生命現象の解析に興味があるので、そのあたりをわりと説明してもらえてよかったです。ポスター発表では特に有意義な議論ができました。以前から聞いてみたかった人の発表を聞くことができた。ショートトークセッションは参加した後で面白いと思った。密なディスカッションが可能。講演者のバランス良かったため。セッション1の玉田さんが、今回の趣旨（前のめり？）を具現化したような雰囲気の方で素晴らしく、印象に残った。セッション4は、永野さんの研究が異色で面白かった。ポスターセッションで共同研究につながるよい出会いがあったから。クマムシの話が印象に残った。ポスターセッションでは非常に密な議論ができた。若本 祐一先生の発表が非常に面白かったです。セッションのテーマに沿った印象というわけではないですが、単純に面白い話が聞けたと思いました。今井さん、荒川さん、若本さんの話が面白かったです。発表者のレベルが高かった。内容に多様性があり、聞いていて全く飽きることがなかった。総合討論ではコラボの仕方などの面白い話が聞けましたが、小規模な会の利点はこういった現実的な問題点をリアルに話し合えるところだと思います。随所でそういう話を聞けたことが有意義でした。演題のテーマもハイレベル、かつ、バランスが良かったと思います。意外にも斬新な視点だと思う。でも生命の本質を理解する上で欠かすことが出来ない課題だから。興味のある話をきけたから。要旨やタイトルを見て内容を想像することと、実際に講演を聴く、ディスカッションすることとは大きく異なっていて、やはり実際に話を伺うと非常に興味深いこと、自身の研究に結びつく可能性のあることを見つけることができました。チェックを付けたものについては、特にそれらを感じました。多岐にわたる分野のモチベーションの高い研究者が「定量化」という共通テーマで集まっている研究会なので、レベルの高い内容のポスターが多く、とても勉強になったため。また、私自身のポスター発表に対するレスポンスのレベルが高いため、自分の研究へのフィードバックを得ることができて有意義な時間を過ごせたから。

1: 講演者の方がセッションの意図をくんだ発表をして下さった。3: 生命の本質に切り込む企画。数年後に復活してもよいかも？ 4: チェアへの進行も含めて楽しめた。分野を超えるは大変面白く、素人ながらエキサイティングだった。天体の技術（補償光学）が役に立つというのは、なるほど尤もなことだ。（実は我々の分野にも、同様の劣化モデル的な話があって、それを想起した。）セッション2は、すみません、裏で某先生より技術相談を受けておりました、参加できませんでした。申し訳ございません。名物ポスターは本当に楽しかった。私の場合ポスターというよりは、個別相談を連続的にやっていたという状況でした。酒飲む暇ありませんでしたが、飲めなくても全然良かった！と思えるひと時でした :-) 普段参加する学会では会うことのないような研究者と議論することができた。セッション1では、古川さん、玉田さんの越境ぶりが印象的であった。セッション2では、冨田さんの入出力関係の定量化と線虫の行動との関係への示唆が興味深く、藤本さんの細胞集団と個の間の関係性の概念整理はきれいなものであった。ペアプレゼンも、いい研究をされている方がいればその都度やってもらうのが定量生物学の会らしくてよい。セッション3では、生物の生と死という状態変化にまつわる特徴付けに思いを馳せられるよい契機となった。セッション4では、永野さんのフィールドオミクスはやっている作業自体が強烈で印象に残った。このセッションは分散したテーマであることをもっと活かせる形になればよりよかった

かと思う。また全てのセッションで、議論時間を長くとしたことも今後さらに活かせると思う。どのセッションも大変有意義でおもしろかった。理論系の方々が、「モデル(simulation)は道具」ということを強調していた点が特に印象深い。また、分野は異なっても、解析法や問題の切り口には一定の普遍性があるため、他の分野の動向を知り、積極的に連携をとっていくことの重要性を思い知った。まあちょっとあれだったけど「死とは何か」という問が面白かった。とても刺激的で魅力的なテーマだと思う。特に今井さんと永野さんの話が非常に面白かった。今井さんのトークがとても面白かった。今後いろいろな問題提起ができたり、仕組みが分かったりしそうな気にさせるデータで非常に印象が強かった。今回、テーマを「前のめり」と宣言したことで、演者の方にも伝わったのか、何人か前のめった発表をしてくれたのは良かったです。あらかじめテーマを宣言しておく、もしくは演者に伝えておくというのは参加者や演者を煽るという意味でも良いのかも？

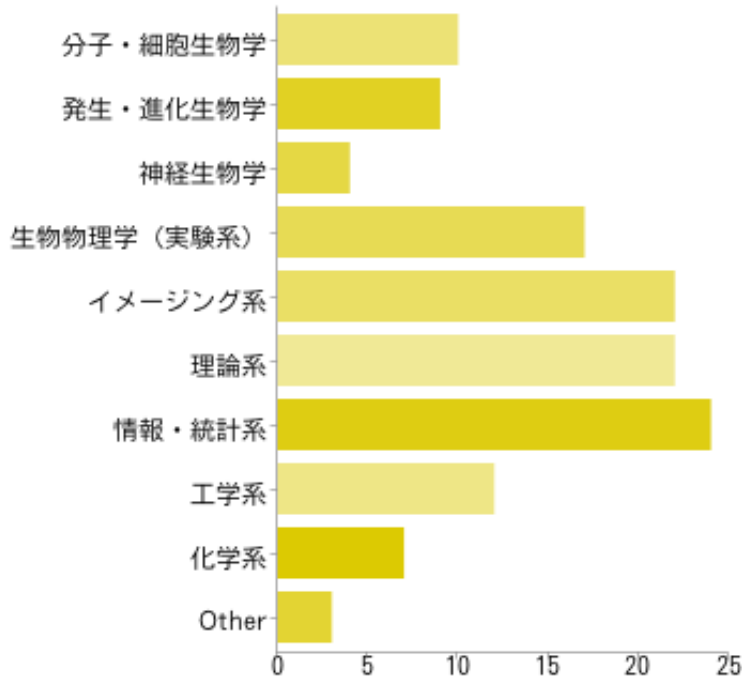
どのセッションもかなり盛り上がったと思います。難易度も例年に比べてそれほど高くなかったし、わかりやすかったです。個人的には「生と死」と「階層を超える」が面白かったです。もっと議論したかったですけど時間切れだったのが残念。討論時間については30分用意していたのですが、期待していたより意見が出ないことが多く、チェアが大変だったなという印象です。今回の反省材料です。ただ討論時間を確保しておいたおかげで円滑に年会が進んだのもありますので、時間を減らしても討論時間を確保した方が良いのかなと思いました。まさかショートトークするとは思わなかった。定量生物学（と呼んでいいのかわかりませんが）はなんにでも応用できることが分かり、自分の研究の可能性を拡げることが出来ると思いました。後半は参加できなくなってしまい残念でした。化学、天文(観測の技術)、分子生物、制御、理論、その組み合わせと、一日目だけでも非常に幅広い視点から生物を覗けて刺激になりました。普段企業の中にいると野心的な研究を目にすることはないので、非常によい刺激になりました。 aa

18. 異分野交流は本研究会の大きな目的の一つですが、実際に実りある交流の機会はありましたでしょうか。



大いにあった	19	37%
あった	30	59%
あまりなかった	2	4%
なかった	0	0%

19. 本研究会に参加してみて、どの分野の研究者ともっと議論したかったと感じましたか（複数回答可）？



分野	人数	割合
分子・細胞生物学	10	8%
発生・進化生物学	9	7%
神経生物学	4	3%
生物物理学 (実験系)	17	13%
イメージング系	22	17%
理論系	22	17%
情報・統計系	24	18%
工学系	12	9%
化学系	7	5%
Other	3	2%

20. 18,19に関するコメントをお聞かせください（例: どの分野の研究者と有益な交流があったか、交流を促進するための仕掛けについてのご提案など）。

幅広くいろいろなアプローチで研究をしている人の参加が増えている印象があり、方法論を共有できる安心感があった。一方で、尖った人をもう少し増やせたらいいなと思った。一人、二人尖った人を呼ぶのではなくて、5,6人の塊で狙った分野の人達を呼ぶのも効果があるかなと思った。どうやるかは難しいかもしれませんが・・・。飲みながらのポスターは素晴らしいと思います。ぜひ続けてください。横河社員からの視点だと、CSUユーザーとの交流（フィードバック）が有益でした。個人的には、少数分子計測の人との交流が楽しかったです。情報系で発生中の多細胞のトラッキングをしている方や、物理系でもmiRNAでのインフォマティクスをやっている方と近接し、広い前提から研究の立場自体を議論したり、技術的な情報交換もすることが出来たのは有意義であった。私は、生きている細胞で微小管を扱っているが、微小管のシミュレーションを行っている学生（東大院総合文化）とディスカッションしているいろいろ教えてもらった。普段定量生物の会に来ない分野の人がくるような仕組みがあると良いと思います。今回、天体の人が来ているのはとても新鮮でした。人文科学で定量性がある研究をしている人を呼んでみると面白いかもと思いま

した。理論系の方に、自分のデータに関してより突っ込んで理論解析していくと面白いようなポイントを指摘され、参考になった。新しい細胞観察系の構築に関してイメージングや工学系の方とも議論をしたかったが、今回は機会がなかった。今回初めて参加させて頂き、自分がまだまだであるつくづく感じました。この分野に新しく足を踏み入れる身として、自身の研究の面白さを的確にアピールし、相手の研究とどう繋ぐことができるのか、そういうディスカッションができるよう、鍛えて参ります。初参加ということもあり、そんなに新しい交流というのはできませんでした。もっと積極的に行きたいと思えます。いつも思うことですが、理論側の参加者がやや少ないように感じられました。これ以上物理な学会にすると生物側の参加者は引くかもしれませんのでさじ加減が難しいのですが。。自由でフラットな雰囲気良かったです。具体的な材料（生データ）を持ち寄って、何かしらみんなで解析してみる、という疑似コラボ体験コーナーを設定すると面白いかも。内田先生と時間切れでお話できなかったのが残念です。モデリングを専門に行っている方々と知り合えて、具体的なアドバイスも頂けて大変有意義でした。これはこれでいいのでは、とも思う。やや無理があるかもしれないが、お弁当を頼んだ人に関しては昼食を席指定にしておくなど。。。セッションの後に、そのセッションの内容についてランダムに分けたグループでトークすることによって、様々な分野の人がどのような視点を持っているのかが分かって面白いかもしれない。本筋とは関係ないかもしれませんが、当研究室へ共同研究の打診があった方とたまたま会うことができ、細かい説明など行うことができたため。単純に普段あまり交流がない分野なので、機会があれば訪ねてみたいことが多い為。私自身は理論生物物理学・理論細胞生物学が専門で、現在実験研究者と共同研究を行っています。私はバックグラウンドによらず「面白い、意義がある。」と思える研究を目指しているので、とりわけ自分の専門と異なる研究者との議論を常に欲しています。もちろん、自分の不得手な領域のアドバイスをいただけるということも大変助かっています。私は研究所に所属していますので、学生さん達と話が出来たのがとても有意義でした。上にも書きましたが、ラウンドテーブルは交流促進という意味ではとても良かったです。あと、私だけの印象かもしれませんが、今回は初日の懇親会の時に、ポスターの前で話す人たちが少なかったような気もしました。多分、ホールのところにお酒とおつまみがあったので、そこに多くの人がトラップされていたように思います。何人かのかたから参加者1分プレゼンという勧められました。免疫学会とかではとてもよいと評判のようです。ただ、全員やると、130分以上それに取りられるので、実質上無理でしょう。休憩のときに、ポスターを順番に表示させるということは可能かもしれません。「共同研究を行うにはどうすればいいか」について、今回のセッションで取り上げられる機会が多かったように感じられ、その内容を試すかのようなラウンドテーブルディスカッションも実装されていたため、心得、手法の例示として、今回の年会在役に立つように思われた。自分の研究を多くの方に知ってもらい、とくに理論系の方々から様々なコメントをいただけたことが大変有意義だった。今回はとりわけ光学に詳しい皆様のお世話になりました。そして分子細胞生物、理論の方です。分子細胞生物は自分のバックグラウンドだったり、理論は日頃から心強い共同研究社がいて大分話題は耳にしているつもりでしたが、改めてしっかりしたお話が聞けたのはやはり勉強になりました。また、生化学や分生のような元々の自分の所属学会から自分がしばらく離れすぎていることも少し反省しました。懇親会のテーブルを無理矢理、ポスター部屋に押し込むべきだった。。反省してます。2月にiCeMSでchem bioのmini sympoがあるのでアピールしてきます。（私のは特殊な立場での回答になるのかもしれませんが、. . .）もともと異分野とのハードルが低く、そして何より、異分野を尊重する姿勢が、このQ-bioの参加者には多く感じます。それが何より素晴らしく、本学会のキ

モだと思っています。(バイオの人だけをとっても、ダイバーシティが広そうですし、) 人数的にも、まさに丁度よいですね。これ以上多いと、同業者が増えすぎちゃって、クラスタができてしまうかもしれません。そうなっちゃうと異分野交流が阻害されて面白くないですね。"less is more"ってやつ具現化ですね。ラウンドテーブルは、翌日以降の交流のハードルを下げる効果が十分あったと思う。思いの外企業参加者との交流があり、意見交換ができて有意義だった。学会レベルになると交流が難しいが、今ぐらいがちょうどいいのかもしれない。チュートリアルのラウンドテーブルには参加できなかったですが、交流を深めるよい試みだと思います。

21. 次回の口頭発表で取り上げて欲しいテーマがあればお聞かせください。

若手PIが多いそうなので、たとえばラボの学生にどのような教育をしているか、事例をあげる、とかどうでしょう？シェアできるものがあるかもしれません。定量的に進化生態 特になし。ちょっと今すぐは思いつきません。考えます。哺乳類細胞分化、運命決定 Synthetic Biology Chemical Biology 4D(3D+time)イメージング・定量化の最先端・新展開の話題 昆虫 理論生物学、1分子計測、合成生物学 ミーハーですが、マイクロバイオーム。普段触れ合いがない分野なので、何かの機会話を聞いてみたい。理論・実験ともに免疫系研究の参加者が増えつつある印象を持ったので、免疫関係で面白い研究をされている方を取り上げるのは一興と思う。超解像顕微鏡、インビボイメージング、オプトジェネティクスと分子操作の新技术(良くあるチャンネルロドプシンとかではなく、もっと先端の新技术系)、イメージング新技术(これもよくあるFRETとかGFPの類の話ではなく、例えば、FattyAcidBP系とかその他聞いたこともないような新技术)。試験管内進化とか人工抗体。無し 定量生物学の10年後はどうなっているのか？ いっそのこと研究者以外のクリエイティブな職業の人の話も聞きたい。放送作家とか。人工遺伝子回路 少数性生物学 実験進化学 実験を自動化して、寝ている間にデータが量産されるようになったら、実験の仕込み、機械のメンテ、データの管理、解析に、何人人手が必要で、費用がどれくらいかかるようになり、サイエンスとしてはどんな話が出せたか、その仕事に携わる人たちのメンタル状態(<なんだこれ>ect.を、惜しみなく公開してくれるお金持ちがいたら、聞いてみたいです。特定の分野ではないですが、今回やけに講演者が顕微鏡画像を見せなければと気にしていたので、イメージング以外の口頭発表をもう少し増やしても良いのではないかと思いました。あらためて1分子計測を極めている人たちの話を分子~細胞レベルで聞いてみたい。実験屋と理論屋のコラボ発表が面白かったので、これが増えると良いです。「両者の関係が上手くいく」講座が欲しいです。超解像顕微鏡のまとまった話を聞いてみたいです。「定量」という観点にはぴったりだと思います。とかく日本はこの分野の研究者が少なく、まとまった話を聞ける機会が少ない印象があります。

22. ポスター発表に関してご意見があればお聞かせ下さい。

例年に比べ、ポスター時間に疲れを感じてしまい、座り込んで夜遅くまで議論、という風にはならなかったのはなぜか、考えてみましたがよくわかりません。名古屋での年会の印象が強かったせいでしょうか？会場の雰囲気とポスターセッションの熱気は関係があるような気がします。特に不都合もなく、大変有意義な情報交換ができた。顔写真は大変助かります。あいうえお順は良かったと思う。細やかな工夫があってよかった 顔写真が良かった。担当時間は必ずしも守られていなかった。見て回るのが少し大変だったこと

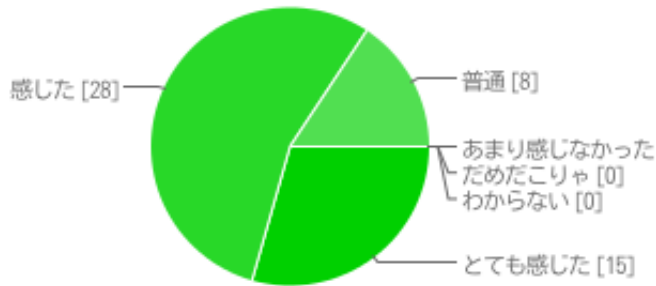
と、死角になってしまふところがあったので、もう少し効率よく回れるように導線を工夫して頂けると嬉しいです。 今回の工夫は有効だったと思います。いつもどの会でも問題になりますが、発表しながら一方で他の話も聞きたいけど聞けないというのがありましたので、順番にポスターの前で、1, 2分程度のショートプレゼン、という形もアリかもしれません。人数が多いので、2, 3組に分けて回せばなんとかなりそうな気がします。 ハンドマイクを使って参加者を呼び出してよいとか？ 今回のスタイルは良かったと思います。海外の学会のように、ポスター会場内で懇親会をすともっと良いと思います。今年も相変わらずレベルが高かったです。特に問題点は見当たりませんでした。非常に見やすかったです。 Post it は初めて使ってみました、役に立ちました。顔写真の添付はmustにしたほうがいいです。 今回のランダム(?) 順、大変良かったと思います。名案に感謝いたします。会場制約があるのは完全に理解しておきなごらの身勝手な意見で恐縮ですが、ナイトセッションにおいて「酒&食べ物供給場」はポスター会場と一体化させることが重要なと思いました。ポスターの前で飲みながら議論、という情景がやや少なかつたので、ちょっとネタを間違つた 1日目と2日目で発表者が入れ替われれば、ポスターボードを増やさずに参加出来る人の数を増やせるようにも思えます。懇親会の他、総合討論後の時間なども活用できないでしょうか。 年会のディスカッションでもあつたが、全員のポスター紹介はいいアイデアだと思う。但し人数が多すぎて実現できるかどうか。ポスター部屋と夕飯スペースが一緒の方が良いと思います。壁でできられていると食べるときに食べるだけになってポスター側まで行かないので。 今回の場合、吹田キャンパス近くの宿泊施設を予約するのが難しく終了時刻が若干早かつた(ような気がした)ということもありますが、もう少し議論の時間が長いとうれしいです。 お酒、食べ物の場所とポスターの場所をもっと近くできるとよいかも。ポスター目の前で供給されるのがベスト。海外の学会で、クーラーボックスに入ったビールがポスター会場要所要所に置いてあつたのは良かった。 従来からの工夫を実行している参加者ばかりではない状況なので、むしろその周知と運用の促進をすればよいと思う。ポスター番号が名前のあいうえお順なのは新鮮だったので、次回も同様の趣旨で番号つけをしたらよいと思う。

23. 参加費の設定、支払い方法(Paypalによる事前振込) についてご意見があればお聞かせ下さい。

全く問題はありません。しかし、私の場合支払い後にメールが届くと説明があつたが、メールが来ませんでした。なぜでしょうか？ 特にない。特に問題なし。最初はフィッシングサイト?かと思つたが、なれば問題ないかも。。。良心的な参加費でした。paypalスタイルは楽でした(私がアカウントをもつていたのもありますが)。いいです 問題なく、かなり最適化されていると思う。特に問題は無いと思います。他の代替案があまりないので PayPal が良いとは思つます。小林さんが前にメールで教えてくれた小さい学会の開催をサポートするところに依頼するのも手かもしれませんが、資金的に厳しいでしょうね。カードで支払いができたので便利だつた とても便利でした。ありがとうございます。非常に便利でした。他の学会もこのシステムを使ってほしいです。とても良いです。参加費は低額であり、支払い方法も事前にネットで済んで合理的である。参加費は安価で、支払い方法も便利なので全く問題ないです。すばらしいと思つます。必要にして十分。この参加費で会議全体をmanageしている世話人の皆様に感謝申し上げます。私もファンド当てて貢献したいなと(^) Paypalで問題ありません。妥当だと思つます。今のままで良いと思つます。支払い方法が便利だ

った。非常に使いやすく良い方法だと思います 安くて助かります。

24. 本研究会に参加して、定量生物学の会について発展性を感じましたか？



とても感じた	15	29%
感じた	28	55%
普通	8	16%
あまり感じなかった	0	0%
だめだこりゃ	0	0%
わからない	0	0%

25. 24.の理由をお聞かせください。

発展性についてはあまりよくわからないが、ラウンドテーブルディスカッションにて様々な意見が出ていたことや、どの席も時間が許すならばまだ議論が続いていたであろう様子から、発展性があるかもしれないと感じた。 発展性というか、だんだん国内に浸透してきたのではないかと、いう気もします。年会自体を国際化するのもいいかもですね。 生物学的現象の定量的な理解は今後必ず必要になると思うので、この会は将来的に重要になると考えるため。 着実にゆっくり成長しているフェイズなのかなと思う。 参加されている皆さん、意識が高く、頭脳明晰で大変良い刺激になった。積極的に情報交換し、この分野を推し進めていこうという強い意思を多くの方が共有しているように感じ、自分自身もその一助になる研究をしていこうと思えた。 研究の質が上がり、単なる定量を超えたところにアプローチしつつあるから。個人的には、もともとの自分のホームグラウンドの学会では不可能な、研究内容について突っ込んだ議論（とくに物理、数理面で）ができるほぼ唯一の場なので、新しい風を入れながら続けばよいなと思ってます。 すでに、一つの分野として他の分野と異なる特徴を出せており、日本の生物研究を推進する上で重要な位置をとり始めていると思う。 企画者と参加者の高いモチベーションを感じました。参加者のバランス（分野、職位、年齢）が良く、いろいろ実践的なところが良いと思います。 自由なディスカッションが可能な雰囲気があり、実際に、質の高い交流が行なわれている。いい意味で、形式にとらわれずに、本質的な研究会の質を高めているように感じられる。 生命現象を理解するためには定量化が必要だと感じるため。 様々な分野の人とディスカッションでき刺激になったから 成果が出てきているから。 今回、自分の中ではなかなか盛り上がったのではないかと思います。まだまだ定量生物学の会でもやれることはあるなと思いました。こういう小さな学会は現状維持で適度に運営していたらあっという間に内輪の会になりがちです。やはり定量生物学の会は「前のめってなんぼ」だと思います。失敗を恐れ

ずに色々チャレンジするのが良いかと思いました。若さと活力を感じたから。年会上にオリジナリティー（皆がポスター発表する、チュートリアルがある等）があり、参加していて楽しかった。発展する必要性をすごく感じました。ただ規模を拡大するといまのいい感じが失われるような気がします。格差はあるにしろ、参加者の間に「定量」が浸透してきているように思えた。参加希望者の多さからも「定量生物学の会」に対する今後の生物学への期待の大きさを感じる。今後は、向こう10年の定量生物学の新展開を明確にしていく議論の機会があるとよいと感じた。若手が中心なので マンネリ感はある。今回に限ったことではないのかもしれませんが、ラウンドテーブルで色々な意見を聞くことができ、そういう印象を持ちました。定量した後の課題や理論などに挑戦していく気概が大事だと思います。あまり意識していませんでした。異分野の研究者が集まり、活発に議論を交わしていることで発展性を大いに感じる。ただし、異分野の発表を聞く場合、その研究の生物学的意義が見えにくいことがあったので、（私も含めて）発表者はその点を気に留めた方が良いかもしれない。多分野の研究者が集結する非常に有意義な研究会だと思います。2回目の参加になりますが、今年も本当に楽しかったです。コアメンバーの方々をはじめ若手の研究者の皆様のエネルギーが凄く、学生である自分も置いていかれないようにしなければと気が引き締まる思いです。手弁当からもう少し安定した運営にした方がいかもしれない。世話人の負担（特に杉村さん）が大きすぎるかと。もう少しそれぞれの専門性をわかりやすくした方が良いと思った。（ビジネスセミナーでは経歴とかでわかりやすくしていた）いろんな人がいて他の学会よりも面白かった。人と人とのコミュニケーションを大事にするような工夫が多いから。（ラウンドテーブルやポスターの顔写真など）これまで同様の質の高い講演とじっくりとったポスター時間に加え、「前のめり」の新しい趣向も組み入れられ、今後さらなる展開がある可能性を感じられるので。スタイル・規模の点から、異分野の方と交流ができる良い機会だと思います。参加者が優秀 今回特に若い方々と話す機会が多かったです。（平岡先生@阪大のような例外もありましたが ^^）そして、若い方々の皆さんのパッションと能力に、いや、もう脱帽しました。こんな若手が入り出す学問分野が発展しないわけないと思っています。オーガナイザーの方々が頑張っていたから。また参加者が協力的であったから。交流の輪がもっと広がればいい。適度に前のめり続けてほしいと思った。何回も参加してきているので、ものすごく刺激的だというわけでもなくなってきていますが、ただ、異分野の面白い話があるのを感じて、とてもクオリティが高い会だと感じています。前回と同様とてもよかったです。未踏の課題はまだ山積していて、定量という切り口からはどこにでもつながっていきけるのを感じます。新しい場所での開催などできれば、また思わぬ発展があるかもしれないと思います。定量した後どうする、というところで本質的な議論が交わされるようになったので。みなさま活発でとても良かったです。最先端の技術を駆使している方が多いと感じたため。若い方が意欲的に参加されているようでしたので。演題も前回と大分異なる内容で、これからまだまだ拡大していく会（分野）なのだろうと感じました。運営スタイルやポスター発表への新しい取り組み、ラウンドテーブルの実施など、とてもよい企画が多い会であると感じました。第一回年会上に参加してから今回が2回目の参加だったが、初回同様に主催者、参加者の熱気が伝わってくる学会で、規模、参加者、内容ともユニークで、他の学会が果たさない機能を今後も果たしうると感じた。まだ新しいことはできるでしょう 発展性を感じましたが、ちょっと混沌さも感じました。「この先、どうなるんや」みたいな感じもありました。それがこの会の醍醐味なのかもしれませんが。いつもどおり面白かったが、ちょっと不満なのは、参加者に温度差が感じられる事。あまり積極的でない参加者に、強制的に積極的になってもらうしかけを何か作って

もいいかと思った。例えば、講演やポスター発表に対するコメント投稿コーナーを設けて、3人以上にコメントを残すことを全員に義務づけるとか。偉そうな人が少なく、セッションでも比較的意見・質問がしやすい雰囲気があるので。多くの分野で定量は重要であり、様々な相互交流が今後ますます重要になると思いました。aa 異分野交流を行う仕掛けを作らないと、知っている人ばかりと話してしまう現状は変わらないと思う。ラウンドテーブルディスカッションは良かったかもしれない。参加できなかったのが残念である。

26. その他、本研究会についてご意見ご感想があればよろしくお願ひします。

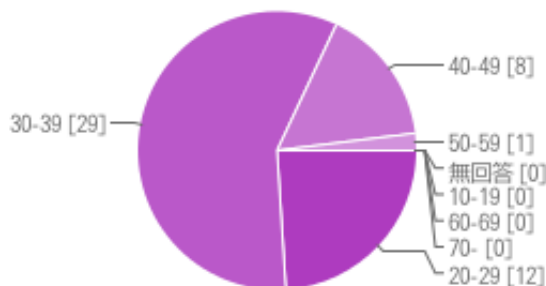
特にないです。頑張ってください とてもいい刺激を受けることができ、本当に楽しかったです。九州でも是非お願ひします。オーガナイズありがとうございました。毎年お疲れ様です。楽しみにしております。世話人の皆さん、ご尽力、本当にありがとうございました。繰り返しになりますが、いつも以上に沢山の皆様とお話させていただいたような気がします。ありがたいことです。画像情報学の方が本会に大量に流れ込んでもバランスを崩すと思いますが、一方、私一人では全く力不足なぐらい画像情報学へのご期待があることはひしひしと感じております。そこで例えば、個別個別のパイプ役として役に立てないかな、とも思っています。「画像情報学でこのネタならこの人どうかな？」と思うこともありますので。（この辺は、別途立ち上がっている「バイオイメージインフォマティクスWS」の役割でもありますね。）来年も可能であれば参加させていただきたいと思ひます。今回は本当にお世話になりました。非常に面白い会と思ひます。また参加させて頂きたいですし、また話をさせて頂きたいと思ひました。前のめりで行くならば、ロボットやラボオートメーションをがんがん取り入れるなどの工学系の人たちとの融合を進めるのもありかもしれない。模造紙を使ったラウンドテーブルは面白いと思ひます。チュートリアルの方が張り出されていなかったのが、少し残念に思ひます。運営ありがとうございました。大変異分野交流に良い機会となっています。今後ともよろしくお願ひ致します。世話人周辺以外のコアの研究や見解が活かされた何かを見てみたいです。すでに、雰囲気が学会に近づいて来ているような気がします（違うかもしれませんが）、小さな有志の研究会としての雰囲気も大切にしていければと思ひます。このアンケートの設問が多くて大変でした。国際とつなげると4日間なので、ちょっと長い。。先の意見とも関連しますが、惰性でやるのは良くないかなと思ひました。世話人に休息が必要ならそれも止む無しです。水を多くしたら多すぎた。チーズ鱈などのおつまみが不足気味？バイトさんがほんとうに素晴らしかった。あと、舟橋さんと小林さんに感謝。

27. 今後「定量生物学の会」に期待することやご要望、アドバイスなどがあればよろしくお願ひします。

1. 開催地によって参加者の分野にバラエティがあり、とても新鮮でした。難しいとは思いますが、北大や九大などの他の開催地も検討できないでしょうか？ 2. 各自の研究を話すだけでなく、今後の定量生物学の新展開を発信するような機会を設けることは可能でしょうか？ 参加したいという人がそれなりにいる一方で、そういった人たちが中々参加してこないことが少し気になります。なぜかこのアンケートの案内メールだけがgmailで迷惑メールになっていて気が付くのが遅れてしまったので、もしかしたら同様の原因で気づかずに回答しない人たちがいるのではというのが気がかりです。九州開催の際は会場設営などお

手伝いいたします。 ラウンドテーブルでの議論の際に、定量生物学の教育をどうするかという話題が出たが、物理のかぎしっぽみたいなサイトが立ち上がればそういう効果が高まるかもしれない。九州開催の可能性について内田さんが調べて下さった情報を裏HPにupしておきました。もう少し年会費を上げて良いかなと思いました。今回、広告費等でいろいろ大変でしたし。ボトムアップの会の難点は、繰り返すうちに固定メンバーの内輪の会になってしまうとネタ切れでつまらなくなってしまうことだと思えます。岡崎などで継続的に開かれている研究会などでも最初は良かったのに...というものもあります。せっかくおそらく国内で若手トップレベルの良い人たちが集まっているのだと思えますし、研究費や成果などのしがらみにとらわれない、という利点を生かした研究会をうまく維持してください。楽しみにしていますし、そういう会なら積極的に加わりたいです。運営担当をもっとコアで回せる方とより良いと思えます。現場主導の会だと思うので参加者と同じ比率でスタッフを配置すると良いと思えます。学生を1人入れるとか。逆に当方にご要望があれば、よろしく願いいたします:-) (もちろん、できることには限りありますが...) 年齢の高い層の参加を促してはどうでしょうか。この会が日本の定量生物学/数理生物学の将来を決めるといっても過言ではないと思えます。これからも期待しています。もっと斬新なことやって アンケートがちょっと長いと思えました。昨年は途中で力尽きてしまい、MLへの登録を逃してしまいました。何のために、このような研究会を企画しているのか、もう一度原点に戻って考えてみる時期に来ているような気がします。仮に、定量生物学の会が無かった日本の生物研究と、定量生物学の会が活動してきて日本の生物研究にどのように影響を与えられたか、というような漠然としたことも考えてもいいのかも、と思いました。次会は、今回とはまた異なる分野の発表が聞けると嬉しいです。もう少しこじんまりした場所で行ってもいいかもしれない。人数も減らして。そのほうがより盛り上がる気がする。コアメンバーや、モチベーションが近い人たちと定期的に会える場として、参加者としてすごく貴重な機会になっています。運営については、世話人やコアメンバーの状況に合わせて、やりたいようにやるのが良いかと思えます。私以外の多くの遠方からの参加者も同様かと思えますが、ホテルの予約を取るのに大変苦労しました。世話人の方々からその旨のアナウンスがあったかと思えますが、正直私の予想をはるかに上回る困難さでした。。来年以降、宿泊施設の早期予約について、さらに念押しをしてアナウンスすると皆ハッピーかと思えます。刺激的で意義のある会を続けられればと。

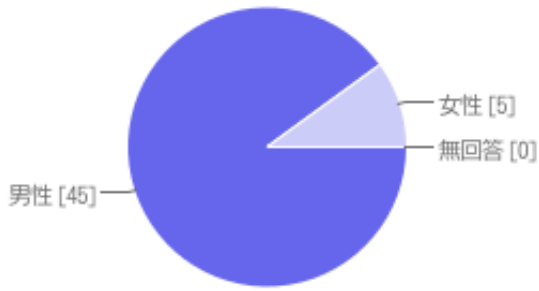
年齢をお教え下さい。



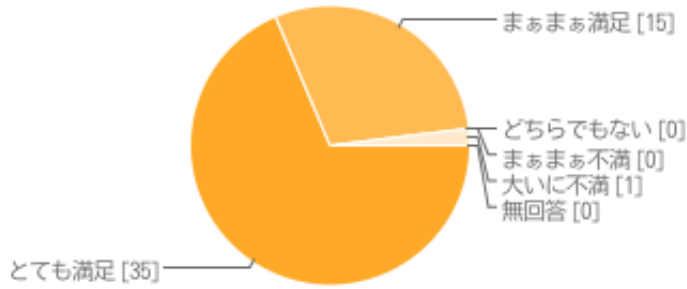
無回答	0	0%
10-19	0	0%
20-29	12	24%
30-39	29	58%
40-49	8	16%
50-59	1	2%
60-69	0	0%
70-	0	0%

性別をお教え下さい。

無回答	0	0%
男性	45	90%
女性	5	10%

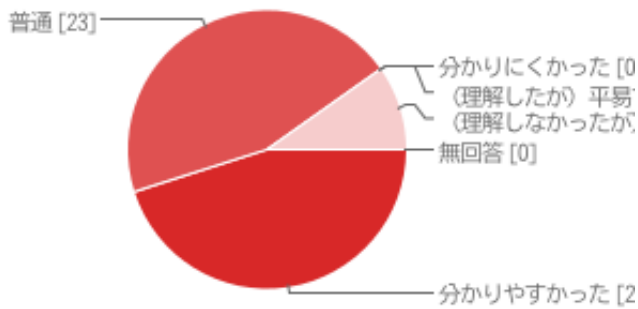


満足度をお教えてください。



無回答	0	0%
とても満足	35	69%
まあまあ満足	15	29%
どちらでもない	0	0%
まあまあ不満	0	0%
大いに不満	1	2%

難易度をお教えてください。



無回答	0	0%
分かりやすかった	23	45%
普通	23	45%
分かりにくかった	0	0%
(理解したが) 平易すぎた	0	0%
(理解しなかったが) 刺激になった	5	10%

Number of daily responses

